

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年6月1日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--|
| 事業所番号 | 4790500021 |
| 法人名 | (株)ふれあい介護センター |
| 事業所名 | グループホームふれあい |
| 所在地 | 沖縄県宜野湾市長田1丁目4番地9号 (電話) 098-896-0247 |

| | |
|-------|--------------------|
| 評価機関名 | 沖縄県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1 |
| 訪問調査日 | 平成20年5月29日 |

【情報提供票より】(H20年4月30日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|-----------------------|-----|
| 開設年月日 | 平成 19 年 4 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 8 | 常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 | 8 人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------------|-----------|
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート 造り | |
| | 1 階建ての | 階 ~ 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------------------|----------------|--------------|
| 家賃(平均月額) | 57,000 円 | その他の経費(月額) | 管理費 日額 200 円 |
| 敷金 | 有() 円 | (無) | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | (有) (120,000 円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / (無) |
| 食材料費 | 朝食 | 400 円 | 昼食 400 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4) 利用者の概要(4月30日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|---------|-----|---------|-----|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 4 名 | 女性 | 5 名 |
| 要介護1 | 2 名 | 要介護2 | 2 名 | | |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | | | |
| 年齢 | 平均 85.6 歳 | 最低 67 歳 | | 最高 95 歳 | |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------|
| 協力医療機関名 | 名嘉真クリニック |
|---------|----------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは母体施設である通所系サービスの運営者が、通所が困難になった人の受け皿として創設された。認知症になってもその人らしさを維持し、尊厳のある生活をしてほしいとの運営者の熱い思いは職員にしっかり受け継がれ、利用者の日常生活支援の中で実践されている。新築のホームはスプリンクラーや緊急コールなど最新の整備が整い、また3畳ほどの和室では仲の良い利用者同士、家庭の縁側でくつろぐ雰囲気でお話を楽しんでおり、ホーム名でもある「ふれあい」が日常のあちらこちらで展開されている。幅広い年齢層の職員のチームワークは、笑顔がすてきな管理者のもと円満であり、互いに尊敬しあいながら利用者支援に励んでいる。今後は運営推進会議を活用して、地域に開かれたホームを目指し、地域との連携を深め、認知症高齢者の安心の拠点となるよう期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | <p>今回が初めての評価となる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義と理解は全員で話し合ったが、勤務時間の関係上、評価記入は管理者と主任職員で行った。自己評価に取り組んだ事で新たな気づきやふりかえり、支援方法を職員共通の視点で捉えることができた。</p> |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | <p>運営推進委員は家族代表、民生委員、自治会長、地域包括センター、ホーム管理者の計6名のメンバーから成り、ホーム開設時に立ち上げた。第1回の開催は事業所の紹介が会議内容であった。2回目以降は全員参加の調整に手間取り、開催できていない。</p> |
| 重点項目③ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | <p>今のところ家族からの苦情や不満は直接聞かれない。毎月開催している家族会は、食事会とのセット開催によって全員の参加が可能となった。これは家族の提案によるものであり、当日は子はもとより、いとこ、孫の参加もあって毎回賑やかに行われている。</p> |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | <p>自治会の大正琴サークルや琉大芸能研究サークルなどを招いて鑑賞と交流会を持った。月に1度ホームで行われる回想法は、宜野湾市立博物館に行くことによって効果を増し、思い出をよみがえらせてくれるので積極的に出かけている。</p> |

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「自立・参加・尊厳」の3つの理念を端的かつ明快な言葉で掲げ、それぞれを深く掘り下げて方針を打ち出している。グループホームが地域密着型サービスに位置付けられた年度にホームは創設されたので、創られた理念は、地域社会で生活・参加する重要性を強く意識したものとなっている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は朝のミーティング時に全員で暗誦している。利用者の前日の様子を話し合い、情報共有した上で、理念を念頭においてその日のケアを具体的に実践している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会サークルや大学の芸能研究会を招いて鑑賞と交流会を持った。地域の思い出を蘇らせてくれる市民博物館を積極的に利用しているが、普段から地域行事等へ参加案内が来ることが少なく、自治会への加入を検討している。 | ○ | 近くには市民公園、公民館、ハーブ園などが在るほか、小学校校庭を利用した地域活動も活発だ。地元の行事等の情報収集に努め、地域資源マップを作り計画的に参加してほしい。行ったり来たり、呼んだり呼ばれたりの関係が地域交流のなかで活発に行えるよう期待したい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価の意義と理解は全員で話し合ったが、勤務時間の関係上、評価記入は管理者と主任職員がおこなった。自己評価に取り組むことで新たな気づきやふりかえり、支援方法を職員共通の視点で捉えることができた。 | ○ | 自己評価票はコピーして全員配布し各々時間を見つけて書いてもらう。そして途中経過で検討し、さいごに全員参加で仕上げると、毎回ミーティングを持たなくても評価記入できるので、いろいろな方法を検討し、次回は全員参加で自己評価できるよう期待したい。 |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ホーム開設時に委員会を立ち上げたが2回目以降は全員参加の調整に手間取り、開催できていない。 | ○ | 隔月開催の運営推進委員会は義務づけられているので実行してほしい。幅広い立場からのメンバーの声は、地域理解と支援にストレートに繋がる。事業所の方針、認知症への理解、制度、事例報告、地域資源の紹介など議題をあらかじめ年間計画していると開催がスムーズに行えるので、今後活発な会議が行えるよう期待する。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|--|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市町村へはホームを創設する段階から相談や連絡、ホームの紹介や情報提供など、活発に行き来している。 | ○ | 市町村との関わりは事業所の運営だけに止まらず制度上のことも含めて、なんでも気軽に話せる関係作りを更に期待したい。また行政的な相談だけでなく、ホームの行事に市の職員を招待したり、昼食を共にしたり、ゆくゆくは市役所のロビーで作品展(ちぎり絵)の計画など積極的なアプローチをかけてほしい。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 利用者の家族が昼食時に訪れたり、電話連絡などで様子を確認したりと家族の往来が頻繁に行われており、その都度利用者の様子を報告している。ある利用者の家族は毎晩訪れ、部屋で三線を奏でるが、利用者全員の楽しみとなっている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 今のところ家族からの苦情や不満は直接きかれない。毎月開催している家族会は、家族の提案により食事会と兼ねて開催され、全員の参加が可能となった。子はもとより従兄弟、孫の参加もあり毎回到ぎやかに行われている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 過去の異動においては、利用者へのダメージはみられなかった。今のところ特別な取り組みはしていない。また何らかの事情があっても利用者が心配しないようネガティブでストレートな言い方はしないように心がけている。 | ○ | 職員と利用者の日々の関わりは月日を経るごとに深まり、ホームが我が家になっている利用者にとって、異動等は深い喪失感に繋がる。引継ぎの時間を長く取ったり、全職員が均質性のあるサービスをすることによって利用者へのダメージを少なくできる。これからのホームのためにも異動等に関するマニュアル作成が望まれる。 |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者は職員の質向上・育成にも意欲的であり、資格の取得方法や、学習に関するアドバイスを惜しまない。また管理者はスーパーバイザーの役目も引き受け、仕事の悩みや、職場の人間関係などストレスが溜まらないよう気配りしている。 | | 研修はホームの質向上に直接つながるので職務調整して是非実行してほしい。正しい知識、新しい方法、技術は研修から得られる。研修の年間計画を立て、職員が公平に参加できるようにし、受講後の報告により研修内容を全職員で共有できるよう期待したい。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 沖縄県グループホーム連絡会に加盟して、管理者間の交流を行っているが、職員同士の交流には至っていない。 | ○ | グループホームは、その成り立ちの経緯からして結びつきが強く友好的であるから、職員同士の交流、職場交換、見学、勉強会など積極的にホーム間で連絡を取り合い、ネットワークを広げていってほしい。まずは市内の4ホームで連携をとること(事例検討を行うなど)で、ホームに良い変化が出てくるよう期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|-----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 家族の相談を受けた時点で本人の様子を詳細に聞き、家族も含めた現場体験をしてもらっている。ホームへは本人が納得できるまで何度でも自由に来てもらっている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者の生活暦から導き出された行動(食器拭き、洗濯物たたみ、掃除、買い物、新聞取りなど)を支援している。職員は昔のおもちゃづくり、編み物、折り紙、方言、言い伝えなどを教えもらい、コミュニケーションは「ありがとう」を媒介に双方向に流れている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 「その人らしさ」を基本においた支援をしている。家庭でやっていたことを尊重し、家族との外出、法事参加などは積極的に支援している。本人の意思確認が困難な場合でも、家族に何でも聞くという姿勢を常に持っているため本人本位の暮らしぶりは実行されている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護計画は、管理者、計画担当が毎日利用者に関わっている事と、見開きの業務日誌に利用者の様子や職員の気づきが詳細に記入されている事をベースにして、利用者個々のケアを検討し、月例カンファレンスで利用者と家族の意向や希望を聞いて作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 日々の行動支援で課題が見つければ、職員で話し合いを持ち家族と連絡を取って総合的な話し合いのもとで見直しを行っている。また緊急な出来事や状況変化が見られた場合は、月を待たず現状に即して介護計画を見直している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 利用者の主治医往診を月2回行っている。24時間体制で協力病院の医師、看護師との連絡が可能であり、指示に従って行動出来る緊急救急箱も備え付けてある。ホームからデイサービスに行く利用者に対しては送迎をしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所前からのかかりつけ医を支援しており、家族付添いが無理なときは職員が同行している。かかりつけ医へはホームでの様子、現在の状況など確実な情報提供が出来るようホームでの記録のコピーを持参している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 現実対応は未だない。職員に看護師を配置し、医療連携体制加算の指定を受けており、終末期に対する受け入れの方向性は出来ている。 | ○ | 家族アンケートの実施や協力医療機関との連携、意見交換などにより方針の共有を図ってほしい。また終末期における倫理や高齢者の心理、職員の心構えなど日頃から職員間で話し合い、具体的な対応方針を定めて、マニュアルを作成することが望ましい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 特に言葉づかいに気をつけており、馴染みの関係から気持ちがゆるんだ場合はその都度お互いで、または管理者から注意している。失禁した衣類等を秘匿する利用者には、その場を離れた時に処理を行ったり、排泄場面に緊張する利用者に対しては、外窓から佇み、終了するまで見守っている。 | | 排便チェック表における便模様の記号化はプライバシーへの配慮が感じられる。できれば題目もそのようにしてほしい。 |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 理念の「その人らしく生きる」暮らしを見守りながら、自立に向けた支援をしている。大まかな1日のながれはあるが、予定していたプログラムとは別のことを希望する利用者にも対応するなど、その日、本人がやりたいことを尊重した支援を行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 昼食のみ母体施設から配食される。利用者は好みの席で全員揃って職員と共に食する。盛り付けはテーブル上で行うので、食事への興味と楽しさと関心がふくらむ。朝夕の献立は、前日に作り方から出来上がり写真までカラー仕上げのレシピとなって毎日掲示される。また各自トレーなしでの食卓光景は家庭と同じであり、自分の皿の確認や数の確保が、頭の体操になっている。 | | 食事時のテレビの音量が大きく感じられる。会話が少なくならないように静かな音楽に切り替えてみたりして、変化も楽しんでほしい。 |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 日々の入浴状況を様式化して記入しており、入浴が確実に行われているかを一目で把握できるようになっている。入浴拒否の際には、その人が和む話術で誘導している。また基本的に同性介護であり、都合が付かないときは、同意を得て異性での入浴介助を実施している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | ホームでの役割や楽しみごとは、介護計画書に基づき支援している。新聞読み、生け花、ぬりえなど、やりたいことがあれば直ぐ提供できるようアイロンや、裁縫用具なども準備している。毎月、全員で制作する季節ちぎり絵はリビングの壁をにぎわし、利用者は今月の自信、来月のお楽しみへと夢を膨らませている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 定期的な月1度のドライブは希望先を聞いたり、話題の場所や季節感のある所、ふるさと訪問、魚市場などへ出かける。日々においては週3回の食材買出し、ホーム内外の散歩を積極支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関や勝手口など鍵は掛けていない。玄関の内外にベンチが置いてあり、自由に寛げるようになっている。頻繁な家族の出入りのために、また地域の人に気軽に来ってもらうためにも鍵は掛けていない。 | | ホームをより家庭的雰囲気近づけられるよう、創設当初に取り付けていた玄関のセンサーを取り外した。センサーに頼ることなく職員の見守りを徹底し、利用者の自由な暮らしを支援する実践力を高く評価したい。 |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | スプリンクラー(全室)や火災通報専用電話機が設置され、また各部屋の緊急コール電話は夜間でも宿直者に連絡が出来るようになっている。母体施設との協力体制も整備され、管理者は24時間体制である。 | ○ | 突然の災害に備え、マニュアル整備が急がれる。通報の流れ、装置の扱い、利用者の状態像、利用者がパニックにならない合図の方法、誘導手順、役割、避難場所の確保、協力機関への状況説明、家族連絡、冷静な行動など、特に夜間に焦点をあてて対策に取り組んでほしい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|---|------|---|
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 母体施設から配食される昼食は栄養管理されており、カロリー計算も出され、バランスに配慮した献立となっている。食事摂取量も確実に記録し、利用者の健康状態と好みに合わせ美味しく食べてもらえるよう支援している。水やお茶はいつでも飲めるようテーブルに準備してある。また嚥下が困難な利用者にはゼリーを混ぜたり、玄米ジュースなどで工夫している。 | | 水分の過不足は高齢者にとって危険に繋がるので、水分チェックを確実に記録することが望まれる。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間は広く、清潔であり、臭いがない。居間を中心にして居室、トイレ、台所が一つの空間のように広がっている。座り心地のよいソファが置かれているほか、静かな場所に3畳ほどの障子付き部屋が在り、自室以外での昼寝が可能となっている。またこの部屋は家庭の縁側を回想させ、仲良い同士が家に居るようにゆったりと会話できる。 | | リビング側の太陽光線はコンクリート道路に反射して眩しく感じられる。軒を作って植物を這わせると光の刺激が和らぐので話し合って検討してほしい。 |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者のどの部屋にも大きな窓があり明るい日差しと外が望める。各部屋のドアは家の雰囲気を保って華美な飾り付けはしていない。職員は馴染みの物品を揃えるよう声かけをしており、利用者は野の花を生けたり、自作の塗り絵や家族の写真を飾ったりするなど、思い思いの部屋作りをして居心地よく過ごしている。 | | |